

「核科学、放射線、健康に対する科学技術社会論的展望に関する専門家会議」 を開催しました

広島大学は、外務省の支援のもと、「核科学、放射線およびヒトの健康に対する科学技術社会論的 (STS) 展望 (科学および科学技術の社会における役割についての研究) : アジアからの視点」に関する第一回専門家会議「1st Technical Meeting on “Science, Technology, and Society (STS) Perspectives on Nuclear Science, Radiation, and Human Health: The View from Asia”」を平成26年11月27、28日に広島国際会議場において開催しました。

本会議は、IAEA が主催し、広島大学、長崎大学および国立シンガポール大学が合同で、今後 3 年間にわたり担当します。今回は広島大学が主管を務め、国内外からの研究者や学生、約 200 人が参加しました。

浅原利正広島大学長、Ahmed Meghzifene (アフメド・メグズィフィネ) IAEA 線量・医療用放射線物理学部門長の開会挨拶の後に、二日間にわたって開催された会議では、10 か国から 15 人の各分野の専門家から、核科学、放射線とヒトの健康に対する科学技術社会論 (STS) の最新知見などについての講演が行われ、その後、質疑応答やパネルディスカッションなど白熱した議論が展開されました。

また、2日目の午後には、プログラム学生が登壇し、各学生の研究活動、放射線災害復興にいかに関与することができるか、さらに、プログラム修学の熱意などについて発表を行いました。招聘講師や IAEA の Dr. Meghzifene から、「フェニックスリーダー育成プログラムがいかに素晴らしい教育プログラムであるかが明確に理解できた。今後、本プログラムの発展や学生に対してできる限りサポートする。」との心強いコメントがあり、本プログラムの更なる発展が大いに期待されました。最後に、本プログラム責任者である岡本哲治理事・副学長から閉会挨拶があり、盛況裡に幕を閉じました。



浅原学長の挨拶



Dr. Meghzifene の挨拶



集合写真